



埋文だより

第55号

平成23年6月10日発行



竪穴住居跡内の遺物



落し穴

遺跡が語る2つの時代

発掘調査を進めると、地層の重なりの中いくつかの時代の生活の跡が発見されることがあります。

田原迫ノ上遺跡(鹿屋市)では、上の地層から弥生時代中期後半(約2,000年前)の竪穴住居跡や掘立柱建物跡が見つかり、住居跡には大量の土器のほか、土製の勾玉や石鏃・砥石などが残されていました。このことから、弥生時代は人の生活の場として利用されたことがわかりました。さらに下の地層から、縄文時代早期(約9,500年前)の落し穴が見つかりました。縄文時代は、イノシシやシカの狩場にもなったようです。今年度も、引き続き発掘調査を実施しますので、新たな成果が楽しみです。

目次

- ・遺跡が語る2つの時代 1
- ・平成22年度かごしまの遺跡発掘調査・報告書... 2, 3
- ・宮ノ上遺跡出土品 第31回企画展ほか 4
- ・本物に学ぼう まいぶんキット貸出事業ほか... 5
- ・平成23年度発掘調査予定遺跡位置図 6

平成22年度 かがしまの遺跡 発掘調査・報告書情報

近代化産業遺産群

～天保山砲台跡(鹿児島市)～

天保山砲台跡は、1850(嘉永3)年に島津斉興が築いた砲台の跡です。1863(文久3)年の薩英戦争は、



石畳の坂道(荷揚場)

ここからの砲撃で火ぶたが切られたといわれています。



大砲を据えた場所(砲座)

今回の調査で、大砲を据えた場所(砲座)を2か所、船から下ろした荷物を運ぶための石畳の坂道(荷揚場)1か所などが発見されました。全国の砲台跡を見てもあまり例がなく、貴重なものです。

地下式横穴墓群から…

～立小野堀遺跡(鹿屋市)～

古墳時代の中頃(5世紀)の地下式横穴墓群が発見されました。現在、約60基が確認されています。この中の1基から、保存状態のよい人骨が発見されました。身長約140cmの女性で、年齢は30代と考えられます。また、頭骨には赤色顔料が残っていました。

今年度も調査中ですので、新たな発見が期待されます。



人骨が見つかった地下式横穴墓

祭祀的な役割か?

～外島遺跡(出水市)～

縄文時代後期(約3,800年前)の板状の石材や台付皿形土器が入っていた土坑、石皿2枚などが立てられたまま納められた土坑などが発見されました。板状の石材が入っていた土坑の1つからは、高さ約10cmの壺形土器も見つかりました。これらの土坑は、何らかの祭祀(自然や祖先などをまつこと)に使われた施設だったと考えられます。



壺型土器が見つかった土坑

城の守りと人々の生活

～虎居城跡(さつま町)～

南側を除く三方を川内川で囲まれる虎居城跡で、防御施設としての土塁や空堀が、塩の城、中の城、小城の南側にそれぞれ確認されました。塩の城南側の土塁は高さが約2.5mで、その上には人頭大の石が多数残されていました。また土塁の直下には幅5m、深さ2mの空堀がありました。



漆碗

当時の人々が南側からの敵の侵入を特に意識して城をつくったことが分かります。また、空堀などでは地下水にひたっていたことから、漆碗や下駄、木簡、建物の柱等の木製品がくさらずにそのままの形で残っていました。

遺物の年代と科学分析の結果、多くは15～16世紀のものであることが分かりました。



空堀

縄文時代の交流?

～芝原遺跡(南さつま市)～

この遺跡で注目される石器に鋸歯尖頭器があります。

石鏃(矢じり)を大きくした形で、ノコギリの刃のように加工

したものです。2列に並んだ鋸歯縁石器と組み合わせて、獲物をつくもりとして使用されたと考えられています。石器の原料である黒曜石は、佐賀県や長崎県でとれる石材で作られています。どのように運ばれてきたのでしょうか?



鋸歯尖頭器と鋸歯縁石器

川の畔で宴や茶会?

～下鶴遺跡(伊佐市)～

16世紀後半から18世紀初頭の遺物が数多く見つかっていました。特に、茶釜や茶臼などの茶の湯に使うものや、大型の碗や皿・鉢などのもてなすための陶磁器、加治木島津家との関

連が深い山元窯や初期龍門司系の薩摩焼などもありました。これらのことから、加治木島津家と深いつながりがあった茶の湯をしたしむ人物が暮らしていた可能性も考えられます。



茶釜

薩摩焼(龍門司)

平成22年度 その他の発掘調査報告書作成

発掘調査……稲荷迫遺跡(志布志市)、鹿児島納緒所跡(鹿児島市)、船迫遺跡(志布志市)、高吉B遺跡(志布志市)、宮ヶ原遺跡(曾於市)、天神段遺跡(大崎町)、上新田遺跡(薩摩川内市)、山口遺跡(薩摩川内市)、山仁田遺跡(薩摩川内市)、鎮守山遺跡(鹿屋市)、稲荷山遺跡ほか(鹿屋市)、山崎野町跡A(さつま町)、祇園之洲砲台跡(鹿児島市)、堀之内遺跡(薩摩川内市)
報告書作成…鳴野原A遺跡(南九州市)、南下遺跡(南さつま市)、渡畑遺跡(南さつま市)、川骨遺跡・西ノ城遺跡・川幡遺跡(薩摩川内市)、二渡船渡ノ上遺跡・山崎野町跡A(薩摩川内市)、石籠遺跡・十三塚遺跡(鹿屋市)、坂ノ下遺跡・後ヶ原遺跡(薩摩川内市)

※一部は、7月16日(土)からの企画展「かがしまの遺跡2011」で詳しく紹介します。

県文化財に新指定! 宮ノ上遺跡出土品

みやのうえいせき

宮ノ上遺跡は、南九州市川辺町にある遺跡で、旧石器時代から古代・中世にかけての遺跡です。特に、3万5千点を超える旧石器時代の石器・剥片等が出土し、非常に活発な石器製作活動が行われていたことがわかりました。旧石器時代の第Ⅰ文化層（約2万5千年前）では大型縦長剥片を主体とする石器群と台形様石器群が、第Ⅱ文化層（約1万8千～2万年前）では角錐状石器を主体とする石器群（接合資料87個体）が、第Ⅲ文化層（約1万6千～1万7千年前）では小型ナイフ形石器を主体とする石器群（接合資料650個体）が出土しました。特に第Ⅲ文化層における豊富な接合資料は南九州のナイフ形石器文化終末期での石器製作技術や、石器製作に関わった人の行動を知る上で大変貴重な資料であることから、この4月に鹿児島県有形文化財（考古資料）に指定されました。なお、これらの石器の一部は定塚遺跡（曾於市）出土品と共に『発掘された日本列島2011』で全国を巡回します。



第Ⅲ文化層出土遺物

第31回企画展

「新発見!かごしまの遺跡2011」

～県立埋蔵文化財センター発掘速報展～

期間 7月16日(土)～11月27日(日)

場所 上野原縄文の森 展示館

平成22年度に発掘調査した遺跡、報告書を刊行した遺跡の中から選りすぐりの出土品を紹介します。

紹介する遺跡

発掘調査

稲荷迫遺跡、立小野堀遺跡、外島遺跡、田原迫ノ上遺跡
船迫遺跡、近代化産業遺産群（鹿児島紡績所跡ほか）

報告書刊行

鳴野原遺跡A地点、南下遺跡、芝原遺跡、渡畑遺跡、十三塚遺跡

企画展講演会

期日 7月16日(土)、8月27日(土)、11月12日(土) 13:30～15:00

場所 縄文の森展示館1階多目的ルーム
講師 県立埋蔵文化財センター専門職員

発掘調査の成果を、調査担当者がわかりやすく解説します。



考古学講座「南九州の歴史」

縄文時代や上野原遺跡に関する考古学講座を上野原縄文の森で、年5回開催しています。今年度からは時代の範囲を広げ、南九州の歴史という地域に即したテーマで実施しています。

先月第1回「南九州の古墳時代」というテーマで、当センターの文化財専門職員が他の地域と比較した南九州の古墳時代の様相と多様な墓制について解説をし、多数の参加者から好評を得ました。



第1回考古学講座

今後の予定 第2回 7月2日(土)、第3回 9月3日(土)、
第4回 11月(未定)、第5回 2月4日(土) 各回とも 13:30～15:00

本物に学ぼう! 歴史を学ぼう!

「まいばんキット貸出事業」

普段の授業や郷土教育への取組を支援するため、教室の中で本物の土器や石器などにふれることができる、実物資料の貸出事業を実施しています。学びの場をより豊かにする一助としてご活用ください。

◎対象：県内の希望する学校

◎貸出教材：土器（縄文時代、弥生時代）、石器（石斧、石鏃）など

例：「縄文土器の文様を比べよう」縄文土器・石器セット（社会科）
「昔の人の生活」火起こし体験セット（社会科、体験学習）



遺物にふれる（米ノ津東小学校）

「まいばん出前授業」



社会科の授業（坊津学園小学校）

本物の土器や石器など地域の素材・実物資料を活用した教育活動への支援を行い、郷土教育の取組を推進するために、埋蔵文化財センター職員を派遣し、出張講座を実施しています。

社会科に限らず理科や図工の授業支援、講演、火おこしなど昔の人々の知恵や工夫を存分に体感できる体験活動も行っています。

◎対象：県内の希望する学校、PTA活動、公民館講座等

◎申込み先：県立埋蔵文化財センター 電話 0995-48-5811
詳細は、当センターホームページをご覧ください。

かごしま県民大学連携講座「鹿児島島の遺跡に学ぶ」

私たち鹿児島の大昔の人々は、どんな暮らしをしていたのでしょうか。これまでの調査をもとに、鹿児島島の先人たちの生活を分かりやすく紹介します。あなたも受講してみませんか。

◎第1回 おまかせ!夏休み自由研究「かごしまの大昔」

7月26日(火) 13:30～15:00

本物の土器や石器にふれながら昔の人々の生活を紹介します。

また、夏休みの自由研究のテーマやアイデアもいっぱいです。

対象：小学生（5年生以上）・中学生 35名（保護者同伴可）

講師：吉井秀一郎（県立埋蔵文化財センター文化財主事）

◎第2回 「自然とともに生きた南九州の人びと～縄文の植と食」

10月21日(金) 19:00～20:30 対象：一般 50名

講師：寺田仁志（県立埋蔵文化財センター所長）

◎第3回 「縄文はおもしろい」

2月25日(土) 13:30～15:00 対象：一般 50名

講師：新東晃一（南九州考古学研究所長）

会場：かごしま県民交流センター 申込み先：鹿児島県上野原縄文の森 電話 0995-48-5701



「かごしまの大昔」講座

見学してみない?
発掘現場

平成23年度 発掘調査予定遺跡位置図

埋蔵文化財センターでは、年間を通して県内各地で発掘調査を行っており、その様子は見学できます。また、発掘体験や地層の観察などもできます。見学を希望される場合は、埋蔵文化財センターか市町村教育委員会にお問い合わせください。



当センターの見学は、土曜・日曜・祝日・年末年始を除き、毎日午前9時～午後5時まで、入館料は無料です。お近くにお越しの際はぜひお立ち寄りください。

なお、当センターのホームページは、鹿児島県教育委員会 (<http://www.pref.kagoshima.jp/kyoiku/>) または、上野原縄文の森 (<http://www.jomon-no-mori.jp>) からお入りください。

検索キーワード

上野原縄文の森

検索

クリック

埋文だより 第55号

発行日 平成23年6月10日
編集・発行 鹿児島県立埋蔵文化財センター
〒899-4318 鹿児島県霧島市
国分上野原縄文の森2番1号
TEL 0995-48-5811・FAX 0995-48-5820
URL: <http://www.jomon-no-mori.jp>
E-mail: maibun@jomon-no-mori.jp